

〔科目名〕 工業簿記	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 大橋 良生 OHASHI Yoshitaka	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義終了後 場所: 講義教室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 - 商品売買業で行われる商業簿記に対して、本科目では、製造業で行われる工業簿記を学習する。製造業では、購買活動や販売活動などの外部活動に加え、内部活動である製造活動が行われる。外部活動と内部活動の両者を記録・計算することを特色とする工業簿記の基本を身につける。 - 基本的には、教科書の章立てにしたがって、講義を進める。また、適宜、演習問題を織り交ぜながら進行する。 - 講義で学習した内容は連続しているため、毎回の講義について復習を欠かさず行うことが求められる。 15 回の講義が終了した時点で、工業簿記・原価計算の基礎、原価要素の計算、および個別原価計算に関する簿記技術、工業経営における財務諸表、本社・工場会計を身につけられるよう進行する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 - 製造業で行われる製造活動において、製品の製造にかかった費用（製造原価）を計算することは非常に重要である。製造原価を計算することを原価計算というが、工業簿記は原価計算を織り交ぜて行われる。 - この原価計算には、以下の基本的な4つの目的がある。①財務諸表作成に必要な資料の提供、②製品の販売価格計算に必要な資料の提供、③原価管理に必要な資料の提供、および④利益計画に必要な資料の提供。これらの目的を達成するための原価計算の手法を会得する。 - 本科目では、2 年生向けに開講されている「管理会計論」につながる原価計算の基本を習得する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 - 本科目では、製造業で行われる工業簿記について、その基本であるその特色、工業簿記に含まれる原価計算の意義等、工業簿記の勘定や帳簿の仕組みを理解する。 - また、原価計算の目的を理解した上で、原価計算の基本で各原価要素の意義の理解と計算技術を習得する。そして、受注生産で用いられる個別原価計算を行う技術を会得する。 - 原価計算だけではなく、工業簿記で用いられる振替仕訳の意味や帳簿組織を的確に捉え、工業簿記の基本的枠組みを理解することを目標とする。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 昨年度の授業に対し、「授業評価」では下記の点が指摘されました。 (A) 「自習に費やした時間」に関するアンケート質問項目に対し、0～2時間程度と相対的にやや低い値でした。教室外学習の実施の一環として、章末問題を課題に考えています。学習時間から、章末問題にある基本問題に加えて、(検定問題などの)応用問題を組み入れた課題も復習課題とすることも検討していきたいと思います。 (B) 板書と話し方が指摘されております。板書については、注意を払ってきたつもりでしたが、不十分だったようですので、話し方とあわせて、授業プリントを含め改善を心がけていきたいと思います。大きな文字を書くことや口頭での説明を加えるなどに留意したいと思います。 (C) 昨年度は、私語の指摘が多くありました。ガイダンス時に申し上げているように、他の学生の邪魔にならないよう、私語等は慎むようお願いいたします。 板書や座席スペースの関係から、昨年度は教室変更をお願いしたのですが、他の授業科目との関係上、変更は難しいとのことでした。上記の点を含めまして、今後もより多くの学生が理解しやすい授業を展開できるよう心がけていきたいと思います。		

〔教科書〕 上埜進編著『工業簿記・原価計算の基礎 -理論と計算-〔第4版〕』税務経理協会, 2017 年.	
〔指定図書〕 必要なときに提示する。	
〔参考書〕 - 上埜進編著『工業簿記・原価計算演習 -理論と計算-〔第4版〕』税務経理協会, 2015年. - その他, 必要なときに提示する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 1. 課題 :30 点 2. 期末試験 :70 点 計 100 点 ● 100 点満点で, 下記のスケールに基づき評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 :評価 A 70 点以上 ～ 80 点未満 :評価 B 60 点以上 ～ 70 点未満 :評価 C 50 点以上 ～ 60 点未満 :評価 D 50 点未満 :評価 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 - 本科目は, 工業簿記・管理会計の分野を学習する基本となる科目であるため, 基本的知識を身につけ, あわせて, 簿記学習に苦手意識を持たないよう, 主体的に課題に取り組めるよう学習意欲を高める工夫を行いたい。 - また, 簿記は継続して身に付く技術であることを認識させ, 復習の重要性を意識させるように心がけたい。各テーマは別個であっても, 講義内容は, 最終的には結合していくものであるため, 欠席を慎むよう注意を促したい。 - 演習問題を取り入れ, 学生の理解度を確認しながら進めるため, スケジュール通り進行しない場合もある。 - 私語等, 他の学生の邪魔になるようなことは慎んでください。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 工業簿記・原価計算の基礎 内 容: 工業経営と工業簿記の本質, 原価とは, 制度としての原価計算, 工業簿記の勘定体系と勘定連絡 教科書・指定図書 (教科書)第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 工業簿記・原価計算の基礎／材料費の計算(1) 内 容: 工業簿記の勘定体系と勘定連絡／材料費の定義, 材料費の分類, 材料の購入, 材料の消費, 材料の棚卸減耗費の計算 教科書・指定図書 (教科書)第1章／第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 材料費の計算(2) 内 容: 材料費の定義, 材料費の分類, 材料の購入, 材料の消費, 材料の棚卸減耗費の計算 教科書・指定図書 (教科書)第2章

第4回	テーマ(何を学ぶか): 労務費の計算(1) 内 容: 労務費の定義, 労務費の分類, 支払賃金の計算, 消費賃金の計算, 予定消費賃率による賃金消費高の計算と記帳 教科書・指定図書 (教科書) 第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 労務費の計算(2) 内 容: 労務費の定義, 労務費の分類, 支払賃金の計算, 消費賃金の計算, 予定消費賃率による賃金消費高の計算と記帳 教科書・指定図書 (教科書) 第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 経費の計算 内 容: 経費の定義, 経費の分類, 経費消費高の計算, 経費消費高の仕訳と勘定記入 教科書・指定図書 (教科書) 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 製造間接費の計算(1) 内 容: 製造間接費の集計と製品への配賦, 製造間接費の配賦方法の種類, 製造間接費の配賦基準, 実際配賦の方法, 実際配賦の問題点, 予定配賦の方法, 製造間接費の配賦差異の分析 教科書・指定図書 (教科書) 第5章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 製造間接費の計算(2) 内 容: 製造間接費の集計と製品への配賦, 製造間接費の配賦方法の種類, 製造間接費の配賦基準, 実際配賦の方法, 実際配賦の問題点, 予定配賦の方法, 製造間接費の配賦差異の分析 教科書・指定図書 (教科書) 第5章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 部門別計算(1) 内 容: 部門別計算の意義, 原価部門の種類, 部門別計算の手続, 実際配賦の方法, 予定配賦の方法 教科書・指定図書 (教科書) 第6章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 部門別計算(2) 内 容: 部門別計算の意義, 原価部門の種類, 部門別計算の手続, 実際配賦の方法, 予定配賦の方法 教科書・指定図書 (教科書) 第6章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 個別原価計算(1) 内 容: 個別原価計算の意義, 特定製造指図書の役割, 特定製造指図書の製造原価の集計方法, 個別原価計算の種類, 製造指図書別原価計算表, 仕損費の計算と処理, 作業屑の処理 教科書・指定図書 (教科書) 第7章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 個別原価計算(2) 内 容: 個別原価計算の意義, 特定製造指図書の役割, 特定製造指図書の製造原価の集計方法, 個別原価計算の種類, 製造指図書別原価計算表, 仕損費の計算と処理, 作業屑の処理 教科書・指定図書 (教科書) 第7章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 個別原価計算(3) 内 容: 個別原価計算の意義, 特定製造指図書の役割, 特定製造指図書の製造原価の集計方法, 個別原価計算の種類, 製造指図書別原価計算表, 仕損費の計算と処理, 作業屑の処理 教科書・指定図書 (教科書) 第7章
第14回	テーマ(何を学ぶか): 工業経営における財務諸表 内 容: 月次決算と年次決算, 工業経営における年次財務諸表, 製造原価明細書と損益計算書における原価差異の表示 教科書・指定図書 (教科書) 第10章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 本社・工場会計 内 容: 工場会計の独立, 工場元帳に設ける勘定, 本社・工場間取引の会計処理, 内部振替価格による取引 教科書・指定図書 (教科書) 第11章
試験	筆記試験の実施